



# 放牧に活用できるケンタッキーブルーグラス !!

畜産草地部 放牧管理研究室 電話019-643-3562

## 研究のねらい

北東北地域の公共草地に優占するケンタッキーブルーグラスの再評価を肉用繁殖牛の牧養力、飼料栄養価などの点から行う。

## 成果の内容

- ①ケンタッキーブルーグラス優占草地における肉用繁殖牛の輪換放牧による牧養力は年間600CD/ha、放牧期間を200日として滞牧期間中1日当たり成牛12~13頭/haの放牧が可能である(表1)。
- ②ケンタッキーブルーグラスは草地を密に覆い、その被覆度(被度)は高く、低投入持続型草地として利用できる(表1)。
- ③TDN、CP、ミネラルを十分に含有し、NO<sub>3</sub>-N濃度およびミネラルバランスに問題はない(表2)。



ケンタッキーブルーグラス優占草地の放牧風景

表1 放牧成績

	2002年		2003年		ケンタッキーブルーグラスの被度 (%, 04年4月)
	牧養力 (CD/ha)	放牧回次 毎の頭数/ha	牧養力 (CD/ha)	放牧回次 毎の頭数/ha	
6牧区平均	559	11.9	645	13.1	67.8±5.0

注) 放牧期間は、02年は4月下旬~11月上旬(202日)、03年は5月上旬~11月上旬(195日)、日本短角種繁殖牛による滞牧1週間、休牧4週間を基本とする輪換放牧を実施、頭数は草量に応じて増減させ、施肥は年間窒素水準で80~100kg/haを4月上旬と8月上旬~9月上旬に等量分施した。なお、ケンタッキーブルーグラス優占草地はケンタッキーブルーグラスが被度50%以上を占め、それにシバムギ、シロクローバ等が混生し、裸地は殆どみられなかった。

表2 飼料成分

	TDN	CP	Ca	Mg	K	NO <sub>3</sub> -N	K/(Ca+Mg)
平均 (4月~10月)	(%DM)						(当量比)
	59.6	23.8	0.36	0.21	3.05	0.132	2.2

## 成果の利活用

ケンタッキーブルーグラスは夏期冷涼な北東北地域における肉用繁殖牛用の低投入持続型草地として活用できる。特に、牧草の個体密度が高く裸地も少なく、家畜生産性や土壤保全に優れる。